診療局：国際診療科

ースタッフ紹介ー

役　　職	スタッフ名
部　長	南谷　かおり
医長兼総合内科・感染症内科医長	名倉　功二
外来副看護師長	新垣　智子
看護師	谷口　美晴（3 月退職）
保健師	岩岡　文夏
国際医療コーディネーター	難波　幸子
国際医療コーディネーター	木村　ガーリー
国際医療コーディネーター	川上　優太
事務員	廣中　司
協力医師 （膠原病内科部長兼リウマチセンター長）	入交　重雄
協力医師 （総合内科・感染症内科）	三島　伸介（10 月退職）

ー概要ー

国際診療科は、その前身となる国際外来（2006年4月開設）の機能強化を目的として2012年11月にスタートし、医療通訳サービスの提供、院内資料の翻訳、受診に関する問い合わせ対応など、外国人が安心して医療を受けられるよう様々な支援業務を行っている。

医療通訳サービスは、当院を受診する外国人患者に対し英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語の4言語で受付から検査、診察、会計まで付き添い通訳を行うもので、患者は無料で利用できる（人間ドックの通訳は有料）。診療の必要な場面で医療通訳が介在し外国人患者と医療者のコミュニケーションの橋渡しをすることで、言葉が通じないことによるトラブルを未然に防ぐと同時に、満足度の高い医療の提供に繋がっている。通訳件数は毎年増加しており、利用者は泉州地域在住の外国人が約8割を占めるが、関西国際空港の対岸という立地に加えて近年の訪日観光客の増加に伴い、外国人旅行者の割合が増えつつある。夜間、週末といった時間外や希少言語の対応については、外部の遠隔通訳サービスが利用できるようになっている。

初診や会話に時間を要する外国人患者の場合は、総合内科医である名倉医師が直接英語で対応するか、通訳者が同席し診療を行っている。

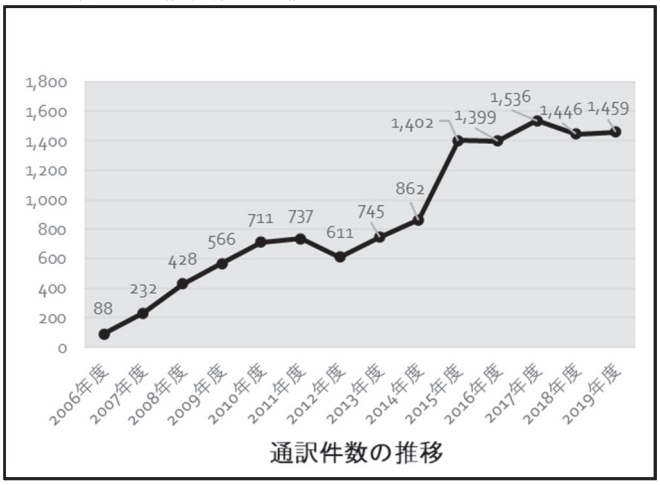
通訳コーディネートを始め、外国人患者が円滑に、安心して受診するために必要な各種調整・サポートは当科の国際医療コーディネーターが中心となって担当している。訪日観光客の場合は日本の医療の仕組みに慣れておらず健康保険にも加入していないため、受診の流れや医療費について事前に説明をして理解していただくなど日本在住者とは異なった対応が求められる。

当院は医療通訳の実地研修（OJT）の場を提供している全国的にも数少ない医療機関の一つであり、2015年度からは大阪大学主催の医療通訳養成コースの実習先としても協力している。今後ますます需要が高まると思われるこの分野において、当院は「現場に根差した」医療通訳者養成という重要な役割を担っていると言える。同時に、多言語を話す医療者のバックアップのもと、「常駐型」の医療通訳サービスを提供していることも当院の特色の一つである。

2013年度からは入交医師による米国退役軍人健診を実施しており、2015年からは日本医学英語検定試験会場の一つにもなっている。また病院スタッフ向けに、米国で看護師をしていた講師が月1回医療英語のレッスンを行うなど、語学力の向上・啓発にも力を入れている。なお、外国人患者受入れ体制に関する外部評価として、当院は外国人患者受入れ医療機関認証制度「JMIP」（バージョン1.1）の認証を有している他、大阪府外国人受入れ拠点や厚生労働省による「医療機関における外国人患者受入れ環境整備事業」の拠点病院に6年度連続で選定されている。拠点病院になることで、コーディネーター雇用に関する補助金や遠隔通訳を無料で使用できるメリットなどがある。

ー実績ー

（1）2019年度別通訳件数の推移



（2）2019年度言語別通訳件数

言語別通訳件数	
中国語	669
英語	398
タガログ語	128
ポルトガル語	118
スペイン語	109
その他	68
合計	1, 490

※一人の患者に対していくつかの言語で対応する場合あり。

(3) 2019年度内容別通訳件数

内容別通訳件数	
診察	831
会計	382
検査	360
その他	246
説明・相談	222
薬	193
受付・予約	96
診断書等	79
処置・手術	60
翻訳	2
合計	2,471

※「その他」には電話対応の件数も含まれる

(4) 2019年度診療科別通訳件数

診療科目別通訳件数	
内科	247
消化器内科	48
呼吸器内科	30
循環器内科	25
腎臓内科	3
糖尿病・内分泌代謝内科	18
血液内科	32
小児科	154
外科	21
脳神経外科	14
整形外科	45
形成外科	35
心臓血管外科	6
歯科・口腔外科	7
産婦人科	222
耳鼻咽喉科	77
泌尿器科	63
皮膚科	4
眼科	6
救急外来	79
救命救急センター	10
健康管理センター	43
国際診療科	56
その他	276
合計	1,522

※一人の患者が複数診療科受診する場合あり。

ー国際渡航ワクチン外来ー

今年度の国際渡航ワクチン外来の受診件数は460件だった。接種ワクチンの内訳を見ると、最も多いのが黄熱で、201名の接種を行った。次いで、B型肝炎、A型肝炎、狂犬病、腸チフス、破傷風の順であった。黄熱ワクチンに関しては、関西国際空港検疫所で行っていた治験が終了し、2019年10月から当院に移行して接種を行っている。

現在当院で用意している輸入ワクチンは、Boostrix®（成人用三種混合）、Priorix®（麻疹・風疹・ムンプス三種混合）、Havrix®（A型肝炎）、Verorab®（狂犬病）、Bexsero®（髄膜炎菌B型）、FSME-IMMUN（ダニ媒介脳炎）、Typhim Vi®（腸チフス）である。国産ワクチンに加え、輸入ワクチンを取り扱うことで、広い選択肢を用意し、より質の高い、受診者のニーズに沿った対応が可能となっている。また、ワクチンの説明、接種のみにとどまらず、安全で快適な海外滞在を支援するために、海外での疾患流行状況や医療機関、防蚊対策、ダニ刺咬対策等幅広い情報提供を行なっている。

内服薬の処方も可能となっており、マラリア流行地域への渡航者にはマラリア予防内服薬(アトバコン/プログアニル合剤、メフロキン)を、高地へ渡航する渡航者には高山病予防薬(アセタゾラミド)を処方している。

新型コロナウイルス感染症の流行により当外来の受診者は減少しているが、流行が収束すれば、一時的に減少している渡航者が再度増加することが見込まれる。当院は関西国際空港の対岸に位置しており、海外へ渡航する方々の出国から帰郷までを見届けることのできる医療機関であり、当院における本外来の役割は重要である。今後も国境を越える人々の健康保全に努めたい。

ー今年度の成果と反省点ー

今年度は、外国人患者向けのホームページをリニューアルした。病院ホームページにおける外国人患者向け発信はこれまで英語ページに偏りがちであったが、中国語をはじめとする英語以外の患者が増えたことを受け、「やさしい日本語」を含めた5言語で等しく発信できるようにした。また、よりわかりやすくなるよう、受診の流れについての説明にフローチャート図を用いた。

質の高い医療通訳者を養成するために欠かせない実地研修を受入れられる医療機関が少ないため、新たに「医療通訳病院研修」プログラムを立ち上げ、英語通訳者を1名実習生として受け入れ、実習を行った。

また、近年のベトナム人患者の増加に対応するため、ベトナム語登録医療通訳者の採用を行った。ベトナム人患者が安心して治療を受けられ、医療現場のスタッフが混乱せずスムーズな医療を提供できる体制を整えた。

ー来年度への抱負ー

外国人患者を取り巻く環境の変化に伴い、当院のみで外国人患者に対応することが難しくなってきた。地域の医療機関と協力して外国人患者医療のニーズを充足していける方策を考えていきたい。